夏に体験した怖い話

W校　高等部二年二組
戸塚　ジョナサン

あの経験は今でも思い出すと寒気がします。八月五日の夜、私は初めて「睡眠麻痺」という現象を体験しました。

それは深夜十二時頃にパッと目が覚めたときのことです。その時の状況をもう少しお話したいと思います。私は冷や汗をかきながら目を覚ましました。真っ暗で、私の目以外はまったく体が動かないような状態でした。そしてまるでホラー映画のように、私は金縛りにかかったまま、はっきりとしない「何か」が近づくような感触を実感しました。

私は目でその正体を追いかけようとしましたが、いつも視界の隅にいるようで、よく見えないでいました。しかし、私が感じたところ、それは幅三センチほどのかなり小さな昆虫で、黄緑色に光る脚を何本か曲げていました。そして、その口には鋭い針があり、まる

でその嫌な体液を私に注入しようとしているように見えて、恐ろしく思いました。同時に、私の胸には締め付けられるような痛みが走り、そしてうまく呼吸ができないでいました。おそらく五分ぐらいの時間がたったと思いますが、一時間ぐらいの時間に感じられました。やっと我に戻り気がついたら、私の心拍数は驚くほど上がっていて、心臓の音がバクバクといつまでも鳴りやみませんでした。しばらくしても、私はベッドに横たわったまま、首筋や背筋がゾクゾクするような感覚を覚えながら、この経験をノートに書き留めておこうと思いました。全体的に見れば、非常に興味深い体験ではありましたが、二度と繰り返したくない、と私は心の底から思いました。

ただ私はこの経験を怖いものとしか認識していたくなく、その後、この「睡眠麻痺」についてネットで調べました。

この現象の原因を調べてみたところ、「レム睡眠中、全身の筋肉は弛緩しているのに、脳

が半ば覚醒しているために起こる。」と書かれていました。しかし、物理的な原因は知られていても、その根本的な要因はまだ完全に解明されていないことも知りました。

「ScienceDirect」の記事によると、「複数の研究（合計三万六千五百三十三件数）を集計すると、一般人口の七・六%、学生の二八・三%、精神科患者の三一・九%が少なくとも一回の睡眠麻痺を経験していることが示されていました。パニック障害の精神科患者のうち、三四・六%が生涯睡眠麻痺を報告されていました。」

要するに、この資料から得られた情報で私なりの考えを述べるとすると、睡眠麻痺は一般人口に比較的多く、学生や精神科患者ではより頻度が高いと学びました。実際のところ生徒である私の身にこの睡眠麻痺が起きたことはそれほどおかしい事ではないと知って、私は少し安心しました。

この体験をもとに、理解するためには科学

的な、論理的な面から積極的に不可解なことや、まだ解明されていない未知の分野のことを検査や探究していくのは、人類にとって生きやすくさせることであると学びました。そうした勉学や研究で私も活躍していければいいな、と思いました。

森・海・明日

W校　高等部二年二組
河野　真理咲

食器についた油が取れない。油ぎった鍋の中に使った食器をうっかり入れてしまったので、食器がヌルヌルして、洗っても全然きれいにならない。私のグループはみんなお風呂に入っているのに、私だけは残って、蚊にかまれながら、一心不乱に食器を洗い続けました。「他のガイドの人たちはもっとうまくやっているんだろうな」とか、「なんでこのキャンプにこようと思ったんだろう」という思いが頭をかけめぐりました。今日はまだ初日。何もかもがうまくいきませんでした。

今年の七月、私は友達の澪と一緒に、宮城県にあるモリウミアスというサマーキャンプに、ボランティアのキャンプガイドとして参加しました。キャンプガイドとは、受け持っているグループの子供たちの面倒を見たり、一緒に作業をしたりするグループのリーダー

です。キャンプでは、漁師さんと一緒に海釣りをしたり、森の中を歩いたり、外で料理をしたりしました。楽しいこともたくさんありましたが、ほとんどはつらい経験でした。私が受け持ったグループはみんな明るかったけれど、三人の子がいつもけんかをするので困りました。全体的に男の子と女の子の仲が悪く、仲裁に入るのが大変でした。子供たちは私の言う事を聞いてくれないので、何回も話をしなければならないし、勝手にいなくなった子供たちを探して、施設中を走り回る毎日でした。仕事も肉体労働が多く、疲れているのに、早朝からにわとりが大声で鳴くので、何回も起こされました。キャンプガイドは正直もっと簡単だと思っていたのに、現実は全く違いました。

終わってみると、キャンプガイドをした一週間は確かに大変だったけれど、何名かのキャンパーとはとても仲良くなれました。特にゆうと君は、いつもみんなを笑わせて、口は

悪いけれど、見えないところでたくさん手伝ってくれました。例えば、頼まれなくてもみんなのためにお箸やお皿をこっそり出してくれたり、私が「ありがとう」というと、「僕、優しいからやってあげるよ。」と言って私を笑わせてくれました。また、英語を話すれいなちゃんという十一歳の子はとてもしっかりしていて、私はいつも助けられました。彼女はいつも「はい！」と素直に返事をしてくれて、他の子にとって良いロールモデルになってくれました。この二人のおかげで、私は一週間生き延びることができたのだと思います。このボランティアの経験から、私は忍耐力がついたと思います。人と人がぶつかった時に、間に入り、調整するということも経験しました。将来は子供に関わる仕事をしたいので、つらい経験だってけれども、きっといつか役に立つのではないかと思います。

道徳の授業は必要なのか

W校　高等部一年一組
久木田　葵

二〇一八（平成三十）年四月から全国の小学校では「特別の教科　道徳」の授業が開始された。二〇一九（平成三十一）年度からは中学校での授業が開始される。これらは検定教科書が使用され、成績がつけられるものだそうだ。このニュースはもう四年も前のものだが、この話を聞いた当時衝撃を受けたことを私はいまだに覚えている。

後に調べて分かったことなのだが、道徳科の目的とは「道徳心を培う」ことであり、評価の基準は「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか」「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」の二点だと文部科学省によって説明されており、直接的に道徳的な技能や知識だけで成績をつけるというわけではないらしい。しかし、これを知った後でも、

道徳に成績を付ける必要はないという私の考えが変わることは無かった。

成績がつくという行為が悪いのではない。むしろ自分の立ち位置を把握する、今後の糧として活かせるなどメリットはたくさんある。しかし、その反面何かを学ぶ上での枷にもなりうることを私は身をもって体験している。数字として評価することが出来るものには、その評価の基準として所謂模範解答が存在することになる。道徳においてはひどく曖昧なものになるようにも思うが、採点する教師の感情だけで決めるというわけにはいかないのだから、模範解答というものはやはり存在するのであろう。そうとなれば自分の正直な意見よりもそちらを優先する人は少なくないと私は考える。正解を求めるよりも、考え、他者と共有し、議論するということそのものを重要視する道徳科において、これは不適切なことなのではないだろうか。

道徳科は特別な教科ということもあり、主

要教科とは多少毛色が違う。だからこそ、他とは違い、完璧に評価をすることも難しい。また、更に言うのならば、そもそも道徳の授業自体必要なものだろうか。小学校低学年ならまだしも、高学年、中学生にもなって受ける意味があるのかどうか私は常々疑問に思っていた。思いやりや道徳心は、座学だけで学ぶことの出来るものだと私は思わない。他人と意見がすれ違ったり、葛藤したり。道徳心とはそういった実際に生活を送り、人と関わっていく中で自然と身につけていくものである。それらは知識だけあれば解決するというものではない。例えばそれが礼儀やマナーなどといった一般常識だというのならば、授業で教わり評価されるのは何ら不思議なことではないのだろうが、道徳という教科は人の気持ちを扱う。それは決して一般化できるものではないのだ。明確な答えのない問いなのである。模範解答なんてものはもってのほかだ。例え文章として理解が出来たとしても、それ

を実際に使えるとは限らない。ならばもういっその事、道徳の授業自体を無くしてしまえばいいのではないだろうか。子供たちに道徳心を培わせたいのならば、机ではなく人と向き合っていく機会を増やすべきだと私は思う。

自然の不思議

W校　中等部二年一組
五上　菜穂

私は家族と九日間ネバダ州・ユタ州・アリゾナ州へ旅行に行きました。

一日目は飛行機に乗りレンタカーを借りてそのままホテルでゆっくりしました。

二日目に私たちは景色を見ながら川沿いを歩きました。次に別のところへ行き、高いところから景色を見下ろすととても深くて吸い込まれそうになりました。ニューヨークでは見られない赤い砂や白い岩や砂漠やサボテンやヤギが見れました。私は高くて柵も無いところに立っていたので母は私が今にも落ちないかとヒヤヒヤしていました。

三日目は、馬の蹄に似ている形の川「ホースシューベンド」を見ました。川に浮いていたボートを見つけると米粒のような小ささでした。そこからモニュメントバレーへ向かいました。その途中私たちの車が砂にハマって

しまい抜けられない状況でした。困っているとタイミングが良すぎるくらいに車を引っ張ってくれる車が止まっていたので助けてもらえました。やっとのことでホテルに着き全員クタクタでした。

四日目はホテルのベランダから外に出てモニュメントバレーの間からのぞく朝日が青空へ昇ってゆくのが見えました。その間は沈黙で、不思議とずっと見てても飽きなかったです。そこからモニュメントバレーをまわりました。印象に残ったのは、三本の柱のようなものが並んでいてまるで三姉妹のように見えることから「スリーシスターズ」と名付けられた岩たちです。他にも手のような形をした岩や、ピースの形の岩などたくさんあって面白かったです。『バック・トゥ・ザ・フューチャー』や『フォレスト・ガンプ』などの映画で出ていた「フォレスト・ガンプ・ポイント」を車で走りました。その道は直線でとても長く、目の前に見えた青空の下のモニュメント

バレーはとてもきれいでした。そしてこの旅行のメインといえるグランドキャニオンに向かいました。そこは今まで見た景色とは違う綺麗さがあり、岩が凸凹していてまた吸い込まれそうになりました。ホテルに向かう途中、七頭の鹿が草を食べていました。鹿を近くで見るのは初めてで可愛かったです。

五日目はグランドキャニオンの景色をもう一度見てからセドナへ移動し、四つのうち二つのパワースポットを見に行きました。そこでは岩がねじれていたり「ベルロック」というベルの形をした岩があって不思議でした。パワースポットを見た後に私たちは世界に一つしかない青いマックへ行きました。黄色のMに慣れていたので青いMだとなんだか特別な感じがしました。

六日目は残りの二つのパワースポットをまわり、ルート66に行きました。そこはカーズの映画が舞台となった場所で、アイスクリームとバーガーを食べました。お土産屋さんに

も寄りましたが、どのお店の人もとてもいい人たちでした。移動をしているとき、きれいな二重の虹が見れました。自然を満喫したあと、ラスベガスへ戻りました。

七日目はのんびりラスベガス観光をしてコカ・コーラやM&Mのお店でマグネットを買ったりしました。その夜私たちはシルク・ドゥ・ソレイユを見ました。ショーの世界観が独特な雰囲気で空中ブランコや体を使った技、コメディーも入っていてとても面白かったので見てよかったと思いました。

八日目は残りのラスベガス観光をして、無料で見られるサーカスを見ました。ラスベガスの街では朝でも夜でもホテルがギラギラしていてカジノをしている人たちを見かけます。自然を見てきてからのこの光景は目がチカチカします。

九日目の旅行最後の日はフラミンゴを見ました。他にもハシビロコウや亀やアヒルや大きい鯉を見ました。どの動物も可愛かったで

す。

この九日間で私はニューヨークとは全く違う景色が見られたので、とても楽しくて良い旅行になりました。あの景色を見ていると違う惑星に来たみたいに感じます。緑だけの自然ではなく、赤みがかった岩や砂。鹿やヤギも色が赤みがかっているという珍しい光景も見られました。同じ地球でもこんなに美しい場所があるんだと私は心をつかまれました。この旅行を通して今自分の住んでいる狭い世界を見るのではなく、まだ私たちが見たこと無い広い自然と触れ合うことは大切だと思いました。世界には私たちがまだ見たことのない自然に溢れていると思います。

夏休みの日本帰省：〇とX

W校　中等部一年一組
安立　宙陽

僕は、毎年夏休みに日本に帰省しています。祖父母に会い、大好きな日本を楽しむためです。僕は毎年日本に行くたびに、新しい経験をします。今年の〇（良い経験）とX（悪い経験）を紹介したいと思います。

始めに悪い経験です。僕が平日の午前中、ショッピングモールのゲームセンターへ行った時のことです。母が他の店で買い物をしていたので、しばらくユーフォーキャッチャーで時間をつぶそうと思いました。突然、ゲームセンターの店員に話しかけられました。

「君、学校は」

驚いた僕は、のどに言葉が詰まってしまいました。

「えっと……僕は今、夏休みの旅行中でして……」

と本当の事なのに、しどろもどろになってしまいました。店員は、怪しげな顔で、

「あ、そうですか。」

と言って去って行きましたが、僕のことを家出か不登校の生徒だと勘違いしているようでした。確かに、まだ日本の学校が終わっていない七月四日月曜日の朝十時に、ゲームセンターにいた中学生は僕一人だったと思います。もし僕がいわゆる日本人顔でなかったら、そして日本語を話さなかったら、おそらく聞かれなかったと思います。このような思い込みは防ぐべきだと、僕は感じました。

次は○の良い経験です。僕は祖父母の自宅近くにある温泉が大好きで、祖父母の家に滞在中はほとんど毎日この温泉に行きます。ある日、温泉で僕は財布を落としてしまいました。それに気づいたのは次の日でした。僕は慌てていつも財布を入れている小さなかばんの中を探しましたが、見つかりませんでした。

その日も温泉に行ったので、無理だと思いましたが一応スタッフに聞いてみました。

「昨日財布を落としたのですが、黒い二つ折りの財布の落とし物はありませんか」

そうしたら、スタッフは裏に行って黒い財布を持って、戻ってきました。それは、僕の財布でした。僕はしっかりお礼を言いました。僕が一番驚いたことは、財布の中にまだお金が入っていたことです。信じられません。アメリカでは、考えられない事です。僕の財布を拾って届けてくれた人に感謝したいです。僕もそのような行動ができるようになりたいです。

今年も日本で、良いことと悪いことの両方の経験をすることができ、充実した夏休みとなりました。良い経験として、また一つ日本の好きな所が増えました。僕は、日本とアメリカの良い所だけ吸収していきたいです。来年は日本でどのような経験ができるか楽しみです。

ミドルスクール6年生を振り返って

W校初等部六年二組

竹内 黛

僕は二〇二〇年の十二月十二日に渡米し、その八か月後に現地のミドルスクールに入学しました。この場でミドルスクール六年生の一年間を振り返りたいと思います。

まず入学した直後の一学期は、授業中できるだけ先生の話を聞こうと頑張りました。しかし、英語で全く意味がわからなくて理解もできませんでした。どれだけ集中しても、少ししかわからなかったので、授業が辛かったです。また、友人関係も最初は辛かったです。最初は学校にいる日本人の子と仲良くしようとしましたが、うまくいきませんでした。ランチで一人ぼっちの時もあり、寂しかったです。しかし、全ての授業で一緒のwakiという男の子は、すごく優しくて、授業中ぼくのわからない算数の問題の答え方を教えてくれたり、次の授業の行き先がわからない時

ていねいに行き先を教えてくれたりしました。また、その子とぼくは、ポケモンが好きで、休み時間にポケモンの話やゲームの話ができ、休み時間が楽しくなりました。しかも、その子と仲良くなったので、アメリカ人のグループに入れてもらえるようになりました。言葉がたどたどしい僕に、アメリカ人の友人一人一人がとても優しく親切でしたので、少し居心地が良くなりました。

　小学直後はそのような状況でしたが、毎日アメリカ人の子と休み時間にバスケットボールをしたり、できるだけ話すようにしたら、最後の学期頃になると、友人の言葉を半分聞き取れるようになりました。また、僕は社会科が大好きで、毎日できるだけ授業に積極的に参加して発言をしたところ、社会科のテストで初めて良い点数を取り、先生がとてもほめてくれました。更にこの頃には、クラスにすっかりなじんで、学年末パーティーでは父が買ってきてくれたダンキンドーナッツを食

べながらクラスメイトと洋画を楽しめました。

いよいよ来月から七年生が始まります。僕は少し緊張していますが、7年生では、学年初めのオリエンテーションをよく聞き、学校生活の進め方をきちんと理解し、クラスメイト達とも引き続き交流を深めていこうと思います。

ダンス

W校　六年一組
清原　紗夏

私は昨年の夏にニューヨークに来ました。夏休みが始まったばかりで、学校が始まるのはまだまだ先だったので、しばらく家族みんなで家で過ごすことが続いていました。その際、同世代の友達をつくるきっかけとして始めたのがダンスです。ここに来てから一ケ月くらいたったころ、ダンス教室を見つけて習い始めました。それまではずっと兄弟たちと一緒にいてイライラすることも多くあったのですが、ダンスをすることでそのストレスがへるようになりました。そしてその夏は先生やクラスメイトに基礎となる動きや、新しいダンスをたくさん教えてもらいました。

ダンスを習おうと決めた理由は二つあります。一つめは、三才から六才までバレエとチアダンスをやっていて、ダンスをすることがもともと好きだったということです。それら

を習っていたときも海外に住んでいて、日本に帰るタイミングで両方ともやめてしまいました。また、日本にいたときにK-POPが好きになったことも関係していると思います。

そのころは好きなK-POPアイドルのダンスをまねして覚えては友達とおどっていました。おどることがますます好きになり、アメリカに来てまた新しいダンスにちょう戦しようと思いました。

ヒップホップを習い始めて半年弱ほどすぎ、ある出来事がおこりました。そのころには基礎の動きやダンスを覚える力はぐんとのびていたと思います。クラスが終わって帰るじゃんびをしているときに先生が私とお母さんのそばにあるいてきていいました。

「二〇二二年の二月くらいに新しいスタジオをオープンするんだけど、そのときにドリームチームというコンペティションに出場するチームをつくりたい。オーディションをやるのはもう少しあとだけど、ぜひそのオーディ

ションをうけてチームに入ってほしい。」

その言葉に少しおどろきました。でも、とてもドキドキしてこうふんしました。そこからもっとがんばってダンスの練習をしました。

スタジオのグランドオープニングから約二ケ月。オーディション当日はとてもきんちょうしてがちがちに固まっていました。そしてウェイティングルームでまっていたところ、最後に名前をよばれ、中に入りました。オーディションが全ておわったあとは自分がうまくできたのかできなかったのか分からなくなり、少しだけ泣いてしまいましたが、ともかく結果をまとうと思いました。合否などは、Eメールで伝えてもられるときいていただけでいつくるのかは知りませんでした。そのため、より心配ときんちょうとワクワクが大きく感じました。そんなある日に私がリビングで本を読んでいたとき、両親によばれてそばに行きました。

「なに？」

ときくと二人ともにこっとしていいました。

「さな、ドリームチームに合格したよ！おめでとう！」

聞いた直後は全く実感がなくてかたまっていましたが、その後は本当にうれしくて何回も飛びはねました。

四月の最初の週からドリームチームのクラスが始まりました。どんな人がいるのだろうときんちょうと楽しみな気持ちがありました。そうして仲良くなったのが今のチームメンバー五人です。コンペティションチームに入ったらショーなどに出ることになります。その練習を通してさらにチームメイトと仲が良くなったと感じます。特に六月は二週連続でしかもちがうダンスのショーがあったので通常の練習日以外にもみんなで集まってダンスをしました。新しいダンスの練習を重ねるたびにダンスを覚える速度も速くなったと思います。初めてのステージでは人も思ったより近くてきんちょうしましたが、だんだんなれて

きました。人前でダンスをおどるのははずかしいときもあります。でも、とても楽しいです。先生が来年の一月には大きなステージでコンペティションがあると言っていました。そこでゆう勝することを目標にこれからもがんばってダンスを続けたいと思います。

メイン州

W校初等部　五年一組
斎藤　風翔

「ママ、パパ、メイン州って知っている？」

現地校四年生の社会の授業で一人一州、それぞれ州について調べて発表をするプロジェクトがありました。僕はメイン州について調べることになりましたが知らなかったので家族に聞いてみると、家族もあまり知りませんでした。

メイン州は灯台が六十五個あり、全米一の数で最も人が訪れるのはアケイディアです。特産物はブルーベリーで全米の99%がメイン州から出荷されています。場所はアメリカの北端でカナダと接しています。僕はパワーポイントでアニメーションをえがきながらプレゼンテーション資料を作り、一番良い成績をもらいました。そしてメイン州が大好きになりました。家族もすっかりメイン州が好きになり行ってみたいと言っていました。

20×20

今年の夏は日本に帰ったかったのですが、航空券がすごく高くて諦めました。代わりに飛行機を使わなくてもいける、家族みんなが行ってみたかったメイン州に行ってみることにしました。

飛行機を使わなくてもいけると思ったけれど、僕の住んでいるコネチカットからは車で七時間かかりすごく疲れました。まず最初に一番気になっていたアケイディア国立公園に行きました。山だと思ったら中にはとても綺麗な海があり、僕は弟と一緒に波打ち際まで走っていきました。波が大きくて、すぐ深くなり、口に塩水が入ってきました。砂はサラサラで、お父さんが僕の足を砂の中に埋めると、僕は弟と同じ高さの背になりました。周りを見渡すと崖や岩に囲まれていて、人の姿が小さく見えました。僕も登ってみたいと思い行ってみると、想像よりもゴツゴツしていて滑りやすくて隙間もあり、母は途中から進めなくなってしまいました。僕と父と弟はた

くさんの岩を歩きました。岩を歩いて海へぬけるのがスリルがあって楽しかったです。

午後八時には山頂から日の入りを見ました。ここには事前予約をしていないと入れません。岩登りを楽しみ過ぎて、予約の時間ギリギリになり、駐車場が空いておらず、遠くに停めることになりました。車を降りると物すごい風が吹いていて寒かったけれど、日の入りに間に合うように全力で走りました。カモメも飛んでいたけれど風に吹かれてしまい、自分をコントロールできていませんでした。僕の弟も風に飛ばされそうになって危なかったです。

次の日は朝早く起きてバブルロックを目指しました。バブルロックは一万年前に氷河の浸食によって形成され、サウスバブルの頂上を見下ろす崖の端にゆっくりと形成されました。バブルロックは山の上から転がり落ちそうな角度で丸い岩があります。僕の10倍以上のサイズの岩です。弟と押してみたけれど落

ちなかったです。いつか落ちてしまう日が来るのか、怖いです。

アケイディアのポイントを全て回ると、激しい雨が降ってきました。山の上からは、向こう側から雨がこちらに向かってくるのが見えます。見えてから車に避難したけれど、大体間に合わず、濡れてしまいました。でも森の中で激しい雨に遭遇することがなくて良かったと思いました。

雨がやまなくてもう歩けないのでポートランドに向かうことにしました。ポートランドは全米最大の輸入貨物を扱う港です。港を散歩した後、日本人が経営しているウニ工場にいきました。そこではナマコの加工をしているのを見せてもらいました。すごい速さで身を取り出していて、まるで二倍再生のようでした。ウニやお刺身を買って食べたけれどーあまり僕は好きではありませんでした。ご飯と海苔が美味しかったです。

最後に灯台をいくつも回りました。僕が一

虫好きだったのはツルツルの山を渡った先にある、海に浮かぶ、灯台です。ぬけるような青い空でした。

今回、自分で調べたことをもとに、メイン州を旅することができてすごく面白かったです。アメリカにはまだたくさんの州があるのでも、と色んな州を実際に見てみたいです。

私のおばあちゃん

W校初等部五年一組
フェルナンデス　美奈

私のおばあちゃんは、今、重い病気でねこんでいます。今年の春あたりから具合いが悪くなり、ずっと家で休んでいます。私はとても心配です。

元気のないおばあちゃんのために、私の家族はおばあちゃんがよろこぶようなことをしたいと考えました。七月のおばあちゃんのたん生日に、私のおじさん、母、兄、私の四人で「音楽」をプレゼントしようということになりました。おじさんがグループのリーダーで、みんなで「スタンド・バイ・ミー」という曲をえんそうして歌うことにしたのです。

私とおじさんは、ギターと歌、母はトライアングルと歌、そして兄は歌を歌います。みんなで何週間も前から練習しました。そして、上手くできるようになったら「アカペラ」というアプリを使って、一人ずつ、自分のパー

トを録音して合わせていきます。私は、おばあちゃんのために心をこめてギターをひき、歌いました。仕上がりはとてもよくできました。おばあちゃんはとてもよろこんでくれて、「これは宝物にするね」と言ってくれました。

おばあちゃんは今も具合が悪く、あまり動くことができないそうです。私はおばあちゃんがつらそうにしているのがとても悲しいです。いつもうれしそうで笑顔のおばあちゃんに会いたいです。最後に日本に行ったのは二〇一七年の夏です。それからもう五年もたってしまいました。早く日本に行って、おばあちゃん、そしておじいちゃん、おじさんに会いたいです。おばあちゃんは七十四さいだから、病気でねてばかりいるのはかわいそうです。元気になったおばあちゃんと一緒にお買い物をしたり、おいしいものを食べに行ったりしたいです。

20×20

転校

W校初等部四年二組
河村　こころ

二〇十八年に、私は日本からアメリカに引っ越しました。最初に父から引っ越すと聞いた時、大喜びでした。なぜなら、私の家族はみんな前にアメリカに住んだことがあるので、うらやましかったからです。

アメリカに来て一番楽しかったことは、いっぱい友達を作ったことです。しかし、最初はむずかしかったです。英語をしゃべれない私は、とてもたいへんでした。ですが勉強して英語をしゃべれるようになって、友達がいっぱいできました。

16×16

アメリカに住んでいて悲しいことは、会いたい人に会えないことです。たとえば、私の祖父母が東京に住んでいます。日本に住んでいた時は毎週遊びに行きました。とても会いたいのに会えません。だけど、けい帯で電話できるので嬉しいです。

一番こわかったことは、学校が変わったことです。なぜかというと、私は転校生だったからです。クラスルームに入ると、みんなが見つめてきて、とても恥ずかしかったです。休み時間の時にも独りぼっちでした。ある日、女の子が私をさそってくれました。とても楽しくて、彼女と友達になれました。彼女は引っ越して

16×16

しまいましたが、彼女のおかげでいっぱい友達が作れました。とても感しゃしています。だから、私も転校生が来た時には、助けてあげたいと思います。

私はもうすぐ日本に帰国します。また転校生になるので、とてもきんちょうしています。学校で新しい友達をすぐ作れるか心配です。うれしいこともあります。ようやく祖父母や友達と会えることです。今までは、私はみんなと電話でしか話すことができなかったからです。

悲しいことは、アメリカに住んでいる友達とおわかれをしないといけないことです。

でも、これからもずっと日本とアメリカの友達の両方を大事にしたいです。

16×16

空手のすすめ

W校　四年二組
梶浦　瑶子

今回私は、「空手」について書こうと思います。私は小学校に入学する少し前から空手を習い始め、昨年アメリカに引っ越して来てからもマンハッタンの松濤館流道場まで通っています。そこで、空手の良いところや特徴を考えてみたいと思いました。

空手の特徴は、身体だけではなく心もきたえられるところにあると、私は思います。空手というと強くてかっこいい印象があるかもしれませんが、実際にはとても「礼儀」を大

16×16

切にしているスポーツです。例えば、道場に入る時に礼をする、それから皆で空手の決まり事を守る、などです。決まり事とは、人の話をよく聞く、きちんと「はい」と言う、元気に返事をする、他にもまだありますが、これらは全て大切な決まりです。この決まり事に毎回気を付けながら礼儀を重んじてけいこをがんばることで、自然と身体も心も強くなっていきます。

次に、空手の良いところは、礼儀正しくなれるところと危険な時に役に立つところだと思います。礼儀については先ほど書いた通り、先生や道場に毎回礼をするので自然と目上

16×16

の人をうやまい、けいこの場を大切にするということが身に付きます。危険なことには運良くまだそうぐうしていませんが、もし危ない状況になってしまったら普段から練習している空手の技を使えると思います。

それから、日本とアメリカで先生の違いがあるかどうかも考えてみました。例えば、日本の先生はけいこ中の態度や連絡事項についてとてもきびしかったのですが、それは私たちを心からきたえようとしてくれていたからだと思います。また、アメリカの先生は少しでも何かできるようになるととてもほめてくれます。接し方は少し違いますが、どちらも

16×16

一人ひとり熱心に教えて下さっています。

日本とアメリカで同じところは、大きな鏡があるところです。大きい鏡は日本でもアメリカでも自分の動きを見るためにあります。鏡が無ければどこがダメなのか確認できず上達しませんから、動きが見られるような大きな鏡はとても重要なアイテムです。

色々と空手について振り返ってみましたが、この文章を書きながら「なぜ私は空手を続けていきたいのか」と考えました。やはり礼儀を大切にできるところが素晴らしいし、空手を通して身体も心も強くなれれば

16×16

、自分だけではなく周りの人のことも大切にできると思います。これからもっと自分をきたえて、人を大切にできる人物になりたいと思います。そして、もっと沢山の人に松濤館流空手のことを知ってもらい、興味を持っていただけたら嬉しいです。

16×16

やりきった！ダンスリサイタル

W校　四年一組
笹田　愛夏

六月十九日の日曜日は、ダンスのリサイタルがありました。一年間毎日ダンス・スタジオに通って練習をしたダンスの発表です。朝九時、お昼の十二時、午後四時の三度のショーがありました。わたしは、アクロ、ジャズ、ヒップホップ、リリカル、タップ、バレエ、そして選ばつクラスのダンスの七種類、合計十二回ダンスをおどりました。

一番きんちょうしたことは、苦手なアクロダンスで失敗をしてしまうのではないかと、とても不安に思い

ながらおどったことです。手を上にのばし、後ろにたおれてブリッジをするバックベントは、何度か頭から落ちたことがあったので、こわくて上手にできるまで時間がかかりました。アクロダンスの中に、バックベントをするパートが何度もあったので、わたしはとてもドキドキしていました。でも大きな失敗をすることはなく、上手におどることができました。

とても大変だったことは、ダンスとダンスの間、コスチューム、くつ、アクセサリーを変える時間が短かったことです。お化しょうやつけまつ毛もつけていたので、気をつけなが

ら着がえなくてはなりません。次のダンスに間に合うようにじゅんびするために、とても急いで着がえました。友達も助けてくれて、次のダンスに間に合うようにじゅんびできました。

一番、心にのこっていることは、全部のダンスが終わって最後に全員がステージに登場するカーテンコールです。ライトがとてもまぶしいステージに、友達と手をつないで一列に出てきて、お客さんに向かっておじぎをします。お客さんの顔はまぶしくて見えませんでしたが、ステージには、一しょにがんばってきた友達と先生達の顔が見えました。これ

まで、月曜日から金曜日まで、毎日練習してきたダンスが、もう今日で終わりなんだな、と思うとさみしい気持ちになりました。でも、わたしは、全部やりきったんだ、とうれしくてほこらしい気持ちでいっぱいでした。大変だったけれど、本当に楽しい一日でした。

16×16

コオロギ

W校初等部三年三組
牛山そうーろーう

ぼくは虫がすきです。ほいく園のころは、園ていに出て毎日虫さがしをしました。

ぼくが虫をすきな理由は、何をするのかわからないからです。たとえば、力マキリは止まっているかと思ったら、きゅうに動いて、えものを早くカマでつかまえてむしゃむしゃ食べるところです。ぼくにはそんなことはできません。他には、セミは羽化するときにによーうをします。このように、虫はぼくたち人間が想ぞうもつかない行動をとっていて、そ

れがとても面白いと思います。

ぼくは、今年の春からアメリカに住みはじめましたが、アメリカではあまり虫を見かけなかったので、アメリカは日本より虫が少ないのかなと思っていました。日本では夏にセミをつかまえられるけど、アメリカではセミを見かけることはありません。

でも、夏が終わりすずしくなってきて、にわかりコロコロコロリーと虫のなき声が聞こえてきました。その声のぬもとに行くとコオロギがいました。虫あみをとり出し、そのコオロギをつかまえました。日本にいたコオロギがアメリカにもいること

が分かり、とてもうれしくなりました。

ぼくはそのコオロギをかってみることにしました。虫かごに入れて、図かんでどんなコオロギかを調べてみました。ぼくがつかまえたコオロギは、エンマコオロギというしゅるいでした。生そく場所は、人家のまわりなどです。大きさはやく二十三ミリメートルから三十二ミリメートルです。八月から十一月に夏の終わりから秋にかけて見る事ができるそうです。

コオロギをかってみて、いくつか発見がありました。ひとつは、コオロギはふだんは土にもぐっているこ

とです。ぼくは、外が寒いから土にもぐっているのだと思います。土の中でちぢまっているすがたがかわいいと思いました。ふたつめは、かっているコオロギはおしりにとても長いしっぽのようなものを持っていることです。図かんで調べると、この長いしっぽのようなものは、さんらんかんと言って、メスにしかないきかんで、たまごを土のおく深くにうむために あるものです。

今どはスズムシをつかまえてかんさつしようと思います。

サッカーと友だちのやさしさ

W校初等部　三年三組
蛭子井　啓人

ぼくは、サッカーが好きです。好きなサッカーせん手は、くぼたけふさせん手とリオネル・メッツせん手です。

ぼくは、ようち園の時からサッカーをしています。友だちにさそわれてサッカーを始めました。

二年生の時にお父さんの仕事の都合でアメリカに引っこすことになりました。チームをやめることになってとても悲しかったです。でも、アメリカにきてまたサッカーをやり始めました。初めは、英語がぜんぜんぜんぜん

わからなくてコーチやチームメイトが何を言っているのかまったくわかりませんでした。でも日本でサッカーをやっていたので言葉がわからなくてもなんとなくできました。

この前、試合がありました。対戦相手は、ぼくの友だちのチームでした。試合する前の気持ちは、つぜったいにかつという気持ちでした。

ぼくとチームメイトが一点ずつシュートをきめました。だけど、負けてしまいました。

負けてすごくくやしかったです。

ぼくは、負けてなきそうになりました。ぼくの友だちは、試合にかったのに、うれしそうではありませんでした。

した。ぼくが負けたから、うれしくなかったそうです。ぼくは、すごくやさしい友だちを作ったと思います。「おめでとう」と言いたかったけどなきそうで言えませんでした。

次にまた対せん人するときは、ぜったいにかちたいです。でももしまた負けてしまったら「おめでとう」が言えるといいです。

ぼくは、もっとたくさん練習をしてチームワークをもっとよくしたいです。

ぼくは、サッカーで負けた時のくやしさとかった時のうれしさだけじゃなく、友だちのやさしさを知りました。

石川県の伝統工芸

W校初等部三年二組
早野萌彩

わたしは、この夏、石川県の金沢との登へ行きました。

なぜなら、おばあちゃんの古きいわいで、かがやという旅館にとまりたかったからです。

日本の図書館で、石川県の本をかりて調べました。その本のおみやげページの写真を見て、伝統工芸品にきょうみをもちました。

一つ目は、金ぱくです。金沢駅から歩いて、金ぱくミュージアムへ行きました。金ぱくを作るビデオを見て、金ぱく作りは、大変だと分かり

ました。十円玉くらいの大きさの金を0.000一ミリメートルのうすさにたたいて、のばします。たたいている時に、指をはさまないようにしたり、のばした金ぱくをやぶかないように工夫をしているのがすごいと思いました。金ぱくで作られた大きな着物がかざってあり、着てみたいと思いました。着物は、着られなかったので、金ぱくがのったクリームあんみつを食べに行きました。金の味は、しなかったけれど、お金のにおいがしました。

二つ目は、九谷やきというきれいな品です。はしおき、おちょこ、お皿やマグカップがありました。わた

しの家にある人形も九谷やきだと母が教えてくれました。

九谷やきとは、石川県が地方で生さんされるとうじきです。赤、青、むらさき、緑、黄の五色が多く作われています。ムーミンやドラえもんのお皿があって、かわいかったです。

三つ目は、水引です。水引とは、おいわいの時に、プレゼントに結ぶひものことです。おみやげ屋さんで見て、むすび方がすてきだったので、おこづかいで買いました。まだ、結ばれていない水引を買いました。

なぜなら、一つのアクセサリーを買うより、たくさんあった方がいろな物も作れるし、色も大きさも

自分でえらべるからです。思っていたよりむずかしかったので、作り方の本も買いました。アメリカ人の友だちのプレゼントに手作りの水引をつけて、わたしてあげたいです。

一番すきだったのは、わじまぬりです。母と兄とわじまぬりの体けんができる工ぼうに行って、自分のお皿を作りました。

まず、器の形とがらをえらびます。わたしは、黒いベースにさくらがらのお皿にしました。ざい料は、筆二本、粉とすくうための竹のぼうです。粉は、絵の具のようにまぜると色が変わります。色は赤、青、むらさき、緑、黄、シルバーと金がありました。

わたしは、全色まぜて、オリジナルの色を作りました。

次に、うるしを色づけしたい所にぬり、あまった粉は筆ではらいます。ぬり終わったら、はみ出てしまったうるしや、はうえなかった粉をお店の人に落としてもらって、完成です。

二時間かかったけれど、自分の作ったお皿に、どらやきをのせたらおいしそうにみえました。

石川県だけでもたくさんの伝統工芸があったので、今度は、日本全四十七都道ふ県にある伝統工芸を調べてみたいです。

日本とアメリカのちがい

W校　二年三組
吉武　恵菜

わたしは、日本とアメリカではマスクのしゅうかんについてちがいがあると思います。わたしは、今年の夏いちじ帰国したとき、とてもびっくりしました。なぜかというと、アメリカではそんなにマスクをしてい

る人はいないけど、日本は、
外でも中でもする人が多い
からです。日本の方が室度
も高いので、外でマスクを
していると、ときどき苦し
くなります。わたしは、日
本はアメリカよりすごく、
わたしは何でアメリカの方
が国が大きいのに何で日本
の方がはやってるんだろう
と思いました。

12×12

日本からアメリカへ

W校　二年三組

たかはし　えま

わたしは、お父さんがアメリカにてんきんになったため、行くのがいやでした。なぜなら、先生や友だちが日本人ではないし、日本語が通じないからです。でもお父さんは、先にニューヨークに行ってしまいました。わたしは、家ぞくみんなで

すみたいのでニューヨークに行くことにしました。

ニューヨークに来てびっくりしたことは、家のにわにリすやうさぎがいたことです。友だちの家には、しかがいて、はじめて見たのでびっくりしました。

さいしょに学校に行ったときは、ドキドキしたけれど、先生がやさしかったのですぐに学校がすきになりまし

た。

学校では、スナックタイムがあるし、休み時間が日本より長いです。また、たん生日をクラスみんなでいわってくれてうれしかったです。

九月からげんちこう校でもニ年生になりました。すこしえい語が分かるようになってきてなってきてきて楽しくなってきましたもっとえい語をが

んばってENLをそつぎょうできるようにしたいです。

12×12

ボストンとモントリオール

W校　二年一組
谷内　ゆい花

わたしはこの夏休みにボストンとモントリオールというこつの町に行きました。とてもにているところがたくさんありました。

まずにているところは町がきれいなところです。町

の中ではでん車とバスにた
くさんのっていどうして楽
しかったです。そして、ど
のレストランもとてもおい
しかったです。

つぎにちがうところです
が、まず一つ目は、きょり
です。どちらもほしゅう校
がおわった後に車で行きま
した。ボストンはその日の
夜につきましたが、モント
リオールはとちゅうでちが

12×12

う町にとまり、つぎの日につきました。

二つ目は、パスポートを見せるか見せないかです。モントリオールはカナダだったので、町に入る時にパスポートを見せなければいけませんでした。

三つ目は、一言ばです。ポストンはわたしが知っているえい語でしたが、モントリオールは知らないフラン

又語だったので、きいた時にびっくりしました。

四つ目は、人です。ボストンはわたしと同じ子ジ子人がニューヨークよりたくさんいましたが、モントリオールではあまり見かけませんでした。

五つ目は、お金です。ボストンではいつもつかう子メリカのお金で物を買えましたが、モントリオールは

カナダのお金だったので、お金をこうかんするまで買いたいものが買えませんでした。

いつも車にのってまどから町を見ていますが、バスやでん車にのって町を歩くと、たくさん気づくことがありました。つぎに行く町でもたくさん歩いて、まちやそこにいる人のことを知りたいです。

12×12

ぼくの大ぼうけん

W校二年一組

しの原かいせい

夏休みの朝、羽田空こうはたくさんの人でいっぱいです。でもここには、お父さんもお母さんもいません。一時帰国からー足先にお父さんはアメリカにもどりました。その後、お母さんがびょう気になってしまったのです。お兄ちゃんとぼく

だけでニューヨークへ帰ることになりました。

　空こうまでは、おじいちゃん、おばあちゃん、いとこがつれて行ってくれました。

　おわかれの時、おばあちゃんはないていました。

「さようなら。」

　ぼくはみんなに

と元気に言って手をふりました。

　ひこうきがりりくすると、

いろいろなことがしんぱいで、ぼくはドキッドキッとなりました。お兄ちゃんに「どうしてひこうきはかみなりが当たらないの。」と聞きました。すると、「ひこうきには、かみなりよけがしてあるからだよ。」とお兄ちゃんが教えてくれました。ぼくは少しほっと

しました。その後はしばらくえい画をみたりねむったりしました。ぼくは一どもトイレに行きませんでした。

「間もなくJFK空こうに、ちゃくりくします。」

まちにまったアナウンスが聞こえました。まどの外を見ていると、ビルなどのたてものがだんだんと小さくなっていきました。いよいよです。

ひこうきからおりた後は

かかりの人がお父さんのところまでつれて行ってくれました。お父さんは二コニコしています。

「お父さん、ただいま。」

元気に言いたかったけれどあまり大きな声が出ませんでした。こうしてぼくの大ぼうけんがおわりました。

だいすきなおともだち

Wいちねんさんくみ

さのほのか

なつやすみに、にほんの

レいちばんのおともだちのひ

なみちゃんにあいにいきま

した。ひさしぶりだ。たの

で、またながよくなれるか、

おたしはちょぴりしんぱい

でした。でも、ひなみちゃ

んは、おがっていました。

そのとき、おたしとおなし

よーうに、まえばがニほんねけているのがみえました。
「ぷたごみたいだねー。」とぷたりでわらいあったら、またすぐになかがよくなれました。
ぷたぷたりでよもちゃのクレーンゲームであそんだり、じぶんたちでルールをきめてあそんだりしました。ひなみちゃんがいっしょだ。
たが、にがてなピーマンもたべられました。よるにこ

そり、おにんぎょうであそびました。

なんにちも、ひなみちゃんのおうちにおとまりをしたので、ほんとうのふたごみたいになかよくなれました。

だから、おかえすときがかなしくて、たくさんなしてしまいました。

にほんにかえったら、またたひなみちゃんにあいたいです。

そくてん大すき

Wこうーねん三くみ

ひらとけいか

わたしは、そくてんが大すきです。なぜなら、くるまわって、めもまわってたのしいからです。

六さいになったときそくてんのれんしゅうをはじめました。はじめは、あしをまっすぐにできなかったけれど、たくさんれんしゅ

うをして、じょうずにできるようになりました。

　わたしは、いろいろなところでそくてんをします。まいにち、バスていからいえまでのさかみちでそくてんをしてかえります。ゴルフじょうでおとうさんがゴルフをしているとき、わたしは、よこでずっとそくてんをしています。にほんにえっとたとき、でんしゃの

えきのホームでそくてんをして、おかあさんに「あぶない。」とおこられてしまいました。

いまは、たちブリッジもれんしゅうしてできるようになりました。けれども、そこからおしをあげてたつことは、まだできません。

これからもっとれんしゅうをして、じょうずにできるようになりたいです。

大玉ころがし

W校　一年二くみ

小林かお

わたしは大玉ころがしがたのしかったです。

おとうさんがいてくれたから、大玉ころがしがじょうずにできました。大玉ころがしをしているとき、むねがドキッとしました。それは大玉ころがしでみんなが見ているからはずかしかっ

たのです。でもおとうさんが手つだってくれたから、はずかしい気もちがなくなりました。大玉ころがしをまたやりたいとおもいます。もっと大玉ころがしをたのしくやりたいとおもいます。そのためにはれんしゅうをしたいとおもいます。大玉ころがしでまけちゃったけどこころがあったかくなりました。それは、みんながたのです。でもおとうさんが手つだってくれたから、はずかしい気もちがなくなりました。大玉ころがしをまたやりたいとおもいます。もっと大玉ころがしをたのしくやりたいとおもいます。そのためにはれんしゅうをしたいとおもいます。大玉ころがしでまけちゃったけどこころがあったかくなりました。それは、みんなが

12×12

おうえんしてくれたからです。みんなにありがとうといいたいです。

12×12